

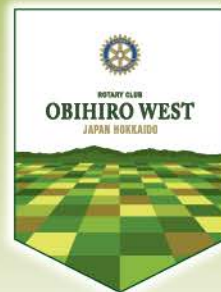


# 帯広西ロータリークラブ

## 第2292回例会

### 2019.10.17

# 会報



#### RI第2500地区テーマ

知らずで語れず! ~ロータリーを学び、ロータリーを語り、ロータリーを楽しみ、そしてロータリーに誇りを持つ!~



#### クラブ・テーマ

会員同士互いによく語り合い、友情と奉仕の輪を広げ、更に魅力ある西クラブにしよう!

### 会長報告

若林 剛 会長

本日は本年度最初の移動例会ということで、日甜さんのビート資料館に伺うことができました。後ほど館長の清水さまより「十勝農業共に歩んで日甜創業100年」とテーマで、講話を頂戴します。十勝は農業立国と日々口にしながら、実は私、ビート資料館に伺ったのは今日が初めてです。しっかりと勉強したいと思います。



先週末釧路にて地区大会が開催されました。帯広西ロータリークラブは、42の登録を頂き、前日の西クラブ懇親会、当日の大懇親会と多くの出席も頂きました。登録資料を見ますと、全員登録であろう、釧路第7分を除きますと、西クラブに次いで登録が多いクラブは、次年度開催地の富良野ロータリークラブの29名で、30名以上の登録クラブは西の42名のみでした。登録人数競争ではありませんが、当日の日帰りの会員や、中には柳沢会員のようにクラブ紹介のみで、釧路滞在わずか数時間の会員もおられました。都合がつかず参加いただけなかった会員も含め、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

さて、我々が地区大会に参加している最中、本州では台風19号で甚大な被害が出ました。直近のニュースでは77名の方がご逝去され、行方不明の方も多数いるとのこと。亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りします。加えて、河川の決壊や浸水で、大変な被害が出ており、復旧には多大な時間とお金がかかると推察します。10月3日付で、台風15号の千葉県への被害へのご支援の案内が、ガバナー事務局より発信され、本日ご支援のお願いをする所存です。改めて、19号に対するご支援のお願いがあると思います。度重なるご支援のお願いで大変恐縮ですが、今後大変な復旧作業が続きます。夜の街や食事の中味を少しだけ節約いただき、うな重を食べるところを三楽のラーメンやインディアンのカレーにするなどして、会員各位の浄財をご寄付いただければと思います。

### 会務報告

河西智子 幹事

- ①帯広北RC、移動例会開催のご案内  
日時 10月18日(金)午後0時  
場所 北の杜
- ②帯広南RC、移動例会開催のご案内  
日時 10月21日(月)午後0時30分  
場所 帯広消防署
- ③帯広東RC、10月22日(火)の例会は、祝日のため休会と致します。
- ④帯広北RC、夜間移動例会開催のご案内  
日時 10月25日(金)午後6時30分  
場所 ディノスボール帯広
- ⑤帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内  
日時 10月29日(火)午後6時30分  
場所 幕別パークホテル悠湯館
- ⑥帯広RC、10月30日(水)の例会は、休会と致します。
- ⑦帯広西RC、夜間例会開催のご案内  
日時 10月31日(木)午後6時30分  
場所 北海道ホテル



### プログラム

職業奉仕委員会

## 「日甜と北海道十勝の関わり、省エネへの取り組み」

日本甜菜製糖(株)総合研究所知的財産課ビート資料館 館長 清水 政勝 様  
日本甜菜製糖(株)販売部札幌営業所 藤井 直樹 様



北海道の製糖会社(甜菜糖関係)は官営紋別製糖所が明治13年(1880)にでき、紋別製糖(株)明治20年(1887)を経て明治29年(1896)に解散になりました。その後、札幌製糖(株)が明治21年(1888)に創業し、明治34年(1901)に解散しています。この建物は現在サッポロビール園・

博物館になっています。当社の前身の北海道製糖(株)は大正8年(1919)に創業し、旧日本甜菜製糖(株)大正9年(1920)・(旧明治製糖(株)大正12年(1923))・北海道興農工業(株)を経て、昭和22年(1947)日本甜菜製糖(株)となりました。



会長 若林 剛  
幹事 河西 智子

副会長 上垣香世子  
副会長 久保 且佳

会場監督理事 近藤 真治  
プログラム委員理事 奥 敏則

発行：広報委員会  
委員長 辻田 茂生 (副)松原 宏樹



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033



それとは別に芝浦精糖(株)・台糖(株)・北海道糖業(株)の三社が昭和43年(1968)に現在の本別にも工場がある北海道糖業(株)ができました。甜菜糖事業が再び歴史の舞台に登場するのは、大正8年(1919年)のことです。北海道に甜菜を導入しようとした松方正義の夢は破れましたが、その子息松方正熊は帝国製糖(株)社長として甜菜糖業の企業化を企画、機が熟するのを待っていました。また、台湾で実績を積んだ他の糖業資本も、北海道・朝鮮・満州の甜菜糖業に強い関心を示しました。第一次大戦の戦勝国として、日本経済は活気を呈したことを受け、大正8年と9年に相次いで甜菜糖事業の新会社が設立されました。

明治製糖(株)は、明治39年台湾に設立。相馬伴治翁が専務として経営に参画、後に社長に就任、グループ会社の明治製菓(株)、明治乳業(株)を次々に設立し巨大組織に育て上げていました。相馬伴治翁は、グループ会社にとって有益な北海道での有畜産業に深い関心をもって、機会があれば北海道でのビート糖事業に参入し、その発展をはかるといふ熱意を持っていました。その様な時に(旧)日本甜菜製糖(株)が2年くらいで経営が立ち行かなくなったという情報を得て、迷う事なく本社・工場を台湾に残し、工場を待たずにビート糖事業に進出し、(旧)日甜を吸収合併し、明治製糖(株)清水工場とし、同時に河西鉄道(株)(大正13年11月)を設立、鉄道に関する資産権利全てを譲渡しました。

渋沢栄一と十勝との関わりは、明治31年(1898年)清水町熊牛地区に十勝地方の開墾と牛馬の繁殖を目的に、大倉財閥の創始者・大倉喜八郎などと共に資本金100万円で「十勝開墾合資会社」を設立し、越前地方より26戸99人が第一陣として熊牛農場に入植した事に始まります。栄一のいとこ「渋沢喜作」が社長となり、畑作・土木・畜産・植林などの事業に従事しました。明治製糖(株)は大正13年4月に十勝開墾の株式の大部分を取得し、これを機に所有する農場の経営を十勝開墾に委託し、清水工場所有の耕地を譲渡しました。そのため十勝開墾は最盛期には8,000haの土地を所有し、550戸の作物農によって年産80万円を売り上げる優良営農社となりました。しかし、用地内の小作農からの要請と自作農化を奨励する北海道の方針に従い、昭和10年(1935年)に所有していた農地を小作人に開放し、十勝開墾は解散することになりました。

ここで改めて甜菜とは何かをご紹介します。甜菜は英名Sugar beetといい、サトウキビと並ぶ砂糖原料作物で糖分約16%を有します。植物としてはヒユ科(旧アカザ科)に属すほうれん草のなかまとなります。寒冷地作物として欧州、北米、ロシア、中国など中・高緯度地域にて栽培され、北海道農業の畑作の輪作体系を担う重要な作物であります。有名なペーパーポットも当社が開発したものです。ビートは非常に効率のいい作物で、仮に1個のビートの重さが1kgとすると糖分が16%なら160gの砂糖ができます。

現在の問題点として全道的な生産者の高齢化や離農によって、労働力の確保が課題となっています。労働力不足によって小麦や豆類などの省力作業への移行が進むと、適正輪作体系の維持が難しくなります。適正輪作体系を維持できる水準を保つためには、甜菜栽培の省力化、低コスト化が求められています。そこである地域の取組みとして、全自動短紙筒移植機直送型から短紙筒・狭畦密植栽培によって収量を上げ、単位面積当たりの生産コストと現在並みに維持することを目指しています。てん菜栽培労力を約3割省力化することで輪作を適正化し、収益を10%向上させるという構想であります。

2019年3月現在ではビート栽培の労働時間は移植栽培の場合、労単位面積当たり土詰・播種・育苗(約3時間)、移植定植(約3時間)、収穫(約3時間)、その他の管理作業(約6時間)で合計約15時間かかります。それが直播栽培ですと約11時間程度になります。省エネへの取り組みとしてはビートパルプ蒸気乾燥設備の導入があります。ビートパルプは、古くから有用な牛の粗飼料として活用されており、1992年に導入の検討を開始して参りました。2001年、オランダ・ドイツ・フランスに渡航して再調査を進め、その結果PSDの省エネ効果やCO<sub>2</sub>削減の有効性は確かなものとなり、当社では設備導入を前提に各製糖所のボイラーやタービン、発電機などのエネルギーシステムを計画的に更新を進め、2005年アメリカ視察を経て、2007年導入を決定しました。実に15年の歳月を経て、2008年5月に我が国初となる「ビートパルプ蒸気乾燥設備(PSD)」の設置工事に着手し、2009年9月無事竣工しました。また排水能力の増強と環境保全を目的に嫌気処理設備の導入もしております。菌体合成率が低く、余剰汚泥の発生量が好気性細菌に比べ1/3~1/10程度と少ないこと、酸素の供給が不要で好気性処理に比べ電力消費量1/3~1/2に削減できること、発生するメタンガスをエネルギーとして活用できることなどから導入を決定いたしました。産業廃棄物の削減としてはライムケーキの再資源化にも取り組んでいます。ライムケーキとは主成分CaCO<sub>3</sub>の産業廃棄物となりますが、高脱水設備の導入による減容化と再資源化の取組みによって主成分以外はわずかにリン酸、カリ等を含むだけとなり(1)牧草地、畑地の土壌改良材(酸性土壌の矯正剤)としての利用、(2)セメント原料への利用、(3)アスファルト舗装資材の混合物であるフィラーへの利用がなされています。

以上、駆け足でしたが当社のご説明をさせていただきました。

### ビート糖業、十勝で復活



### 当社が開発したペーパーポット



### 省エネへの取組み

